

史跡 城跡・信仰遺跡・避難洞窟

2 柚山城跡 B-4

鎌倉時代末期・阿久和ほか 国指定

柚山の山頂にあり、自然の要害とも言える険しい崖を利用してつくられた山城です。鎌倉時代、越後国から当地に移った瓜生氏が城を築いたといわれています。南北朝の縁乱時、金ヶ崎城陥落後は南朝方の越前国における拠点となった堅城であり、延元3（1338）年新田義貞はこの城を出て国府を占拠し府中を攻略しました。その後、北朝方の新波氏の居城となり、朝倉氏の時代にはの家臣河合氏が城番を務めました。山城は、標高492mの「本丸」を中心として東西に「東御殿」「西御殿」と呼ばれる曲輪が築かれています。山麓には城下町があったとされ、城戸や礎石建物が残る城主の「居館跡」や家臣の屋敷跡が存在します。



74 焼ヶ城跡 C-3

平安時代末期・今庄 町指定

今庄宿の背後にある通称愛宕山に築かれた標高267mの小高い山城です。最初の合戦は寿永2（1183）年、平家一門と木曾義仲の戦いでした。平家打倒の旗を挙げ北陸路から都に攻め入ろうとした義仲に対し、平家の総大将平維盛以下10万の大軍が押し寄せました。義仲は仁科守弘に焼ヶ城を築かせ、決戦の前に日野川をせき止め人造湖を造りましたが、平泉寺長史斉明僧師の裏切りにより堰が切られ落城しました。その後延元（1336）年、今庄入道浄慶の居城となり、足利軍に味方して新田義貞等と対峙しました。天正元（1573）年には一向一揆勢が立ち籠もって信長に対抗したものの敗れ、その後廃城になりました。山頂には投石用に使ったといわれる巨石が散乱し、物見櫓跡・堀切跡・石垣などが残っています。

木ノ芽峠城塞群

78 鉢伏城跡 79 観音丸城跡
80 木ノ芽峠城跡 81 西光寺丸城跡

室町時代～安土桃山時代 / ツノ屋・板取 町指定 D-2, D-3

木ノ芽峠一帯の尾根筋には、鉢伏城（762m）、観音丸城（630m）、木ノ芽峠城（620m）、西光寺丸城（643m）と呼ばれる4つの城跡が残っており、それぞれ独立した城でありながら峠の防壁線として連携を持った城塞群として構築されています。4つの城のうち鉢伏城と木ノ芽峠城は、記録は残っていないものの南北朝期の築城と推定され、現在確認できる城の遺構は戦国時代のものです。観音丸城と西光寺丸城は、天正年間、一向一揆の城として構築されたようです。

近代化遺産 鉄道・トンネル・砂防

旧北陸線トンネル群

明治29（1896）年開通の旧国鉄北陸線の敦賀～今庄間には、レンガと石で積み上げた13基のトンネルが掘られ、そのうち11基が現存しています。トンネル群のほかにも、築堤や橋梁・暗渠など明治時代当時の土木構造物が数多く残されています。これらトンネル群とともに、国内最初期のプレストレストコンクリート造の落石覆工「旧北陸線山中ロックシェッド」、敦賀市の農山谷暗渠を含む13基の土木遺構が平成28（2016）年国登録有形文化財（建築物）に登録されています。

15 山中トンネル C-2

明治29年 山中 国登録

現在の南越前町と敦賀市を結ぶアンチ環五枚厚の煉瓦造りのトンネルで、旧北陸線トンネル群中で最長を誇ります。坑 mouth が積みで築かれており、業線トンネルと並び3年の工期の末に竣工しました。現在は県道207号今庄杉津線の道路トンネルに転用されています。

17 湯尾トンネル C-3

明治28年頃 湯尾 国登録

旧北陸線トンネル群としては最北にあり、湯尾峠の下を抜けば日野川の畔に至ります。緩やかに湾曲する煉瓦造りのトンネルで、坑 mouth は南北ともに江戸切仕上げの安山岩の切石積みとなっています。JR今庄駅より約1.6km北方に位置します。

大桐駅跡 C-3

明治41年 上新道

当初は杉津～今庄間の勾配区間の手前であるこの地に、スイッチバックの観点「大桐信号場」として開設しました。のちに、地元からの要望により旧国鉄旧北陸線の駅に昇格し、旅客・貨物営業を開始しました。現在は「大桐駅跡」地としてホームの一部が残存し、D51 蒸気機関車の動輪モニュメントが設置されています。



光明聖寺遺跡群 C-3

飛鳥時代 今庄

今庄宿の西には藤倉山（643m）と鍋倉山（516m）があり、この両山の山麓にはかつて七堂伽藍があったといわれる神峰山光明聖寺の遺跡があります。飛鳥時代に始まる旧村落と見られる門前集落が、光明聖寺を中心に存在したことが伝承されていて、今でもあちこちに石室や磐座が残っています。

68 マンダラ寺遺跡 B-2

平安時代末期・赤坂 町指定

矢立泉岳（472m）の中腹に位置するマンダラ寺遺跡は、地元では「オマンダラ」と呼ばれ、古くから土器などが出土する場所として知られています。奈良時代以降に多くみられる山林仏教寺院で、教学の研鑽などを目的とする修行の場であったと考えられます。

65 下長谷の洞窟 B-1

室町時代前期 / 甲斐城 町指定

奥行き20mを超す甲斐城洞窟群最大の洞窟です。延元2（1337）年の金ヶ崎城落城の際、城を抜け出した後醍醐天皇の皇子・恒良親王をかくまった場所といわれています。

70 円宮寺の避難洞窟 C-2

安土桃山時代 / 河内 町指定

天正3（1575）年、一向一揆勢と織田軍との戦いにおいて、海岸線の防備に付いた円宮寺良親が、織田軍の急襲によって退路を絶たれ身を隠した洞窟です。良親を臍所に庇護した村人たちの美談が伝わっています。

蓮如上人旧跡 B-6

室町時代中期 / 宇ヶ平

文明3（1478）年、北越前の僧に追われた本願寺第8世蓮如上人は、越前へ難を逃れたどり着いた宇ヶ平の老母の案内で、岩屋にかくまわれました。信者となった老母は形見に六字名号を与えられたといわれます。

11 高倉砂防 西高倉堰堤

明治35年 瀬戸 国登録 C-5

田舎川の支流・高倉谷川周辺には、巨石で積み上げられた砂防堰堤12基が点在しています。明治28（1895）年の大雨による土砂災害がきっかけとなり福井県の第1期砂防事業として築造されました。西高倉堰堤は、1.5mの巨石を野面積みの技法で高さ9.6mにまで積み上げられた堰堤で、圧倒的な重量感で迫力の景観と感動を与えています。



69 石造りアーチ橋 (桜橋) B-2

明治19年 赤坂 町指定

明治14（1881）年の福井県誕生の後、嶺北と嶺南を結ぶ最初の単道として「春日野道」が開削されました。「石造りアーチ橋」は、明治19（1886）年の開通時に河野川に掛けられたもので、北陸地方では珍しいものです。



歴史の道 宿場町・峠・街道

南越前町今庄宿伝統的建造物群保存地区

17世紀初めに北陸道の宿場町として成立し、明治以降も地域の中心として、また鉄道として発展しました。街道沿いには江戸後期から昭和30年代にかけて建てられた、重厚感のある町家が建ち並びます。越前地方の豪雪地に発展した旧北陸道の宿場町の姿を良く伝え、令和3（2021）年8月に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

1 旧京藤甚五郎家住宅 C-3

江戸時代後期 今庄 県指定

旧京藤甚五郎家住宅は、江戸時代、酒造業を営む一方で、脇本陣にも指定された今庄宿有数の旧家です。現在の建物は文政元年（1818）の大火後、天保年間（1830～1844）の記録によると、今庄宿には55軒もの旅館があり、今庄宿の繁栄を築いたとされています。幕末の建築とされる旧旅館若狭屋は、本造2階建て。現在の屋根は切妻造鉄板葺ですが、当初は板葺きだったといわれています。正面の平格子や両輪の袖押など、宿場町として築いた今庄宿の姿を偲ぶことができる数少ない遺構です。

12 旧旅館 若狭屋 C-3

江戸時代末期 / 今庄 国登録

天保年間（1830～1844）の記録によると、今庄宿には55軒もの旅館があり、今庄宿の繁栄を築いたとされています。幕末の建築とされる旧旅館若狭屋は、本造2階建て。現在の屋根は切妻造鉄板葺ですが、当初は板葺きだったといわれています。正面の平格子や両輪の袖押など、宿場町として築いた今庄宿の姿を偲ぶことができる数少ない遺構です。

14 旧昭和会館 C-3

昭和6年 / 今庄 国登録

旧昭和会館は、財団法人啓道会を創設した田中和吉氏により昭和6（1931）年に社会教育施設として建てられました。その後、旧今庄町役場として、現在は公民館として利用されています。鉄筋コンクリート造3階建て、設計・施工は京都の上田工務店。今庄宿に残る数少ない洋風建築として貴重な建物です。

73 文政の道しるべ C-3

江戸時代後期 / 今庄 町指定

橋ノ木峠越え（北国街道）と木ノ芽峠越え（北陸道）の道分岐に文政13（1830）年に立てられた道しるべです。以前は本造でしたが、大黒屋由兵衛が世話となり、笏石で建てられました。頭の部分に火袋がある珍しい石柱です。碑文「右 京、敦賀・若狭（北陸道） 「左 京、伊勢・江戸（北国街道）」

北前船主 寄港地・船主館

北前船寄港地・船主集落

河野浦は、江戸時代の西回り航路（北海道から大坂）の海運を担っていた北前船の拠点の1つでした。京都への物資輸送の中心拠点である敦賀にも近く、北前船の船主集落が形成されました。北陸五代船主に数えられる右近家の邸宅や、屋敷地に建ち並ぶ小路は「河野北前船主通り」として整備され、現在も漁村の風景広がる集落となっています。

1 旧右近家住宅 西洋館 B-1

昭和10年 / 河野 国登録

西洋館は、右近家の裏山に位置し、右近家11代当主が設計・施工を大林組に依頼し、昭和10（1935）年に完成した洋風建築です。1階は内外ともスパニッシュ様式で、2階は外観がスイスのシャレー風。内部が和風になっており、独特の組合せと質の高さが際立っています。

1 中村家住宅 B-1

明治20年 / 河野 国指定

中村家は、江戸時代には上使宿をつとめた家柄で、幕府の巡見使や福井藩主が度々当家を訪れています。一方、北前船の時代にはいも早「廻船業に乗り出し、同じく船持ちであった右近家と共に、成功をおさめました。建物は、旧村道を挟んで山側には平屋建て座敷をもつ2階建ての主屋、望楼をもつ3階建ての新座敷と2棟の内東、海側の土蔵群（5棟）と茶屋門とで構成されています。主屋は明治20（1887）年、新座敷が大正2（1913）年に建てられたもので、伝統的和風建築を基調としながらも、未婚の青年2人で舞を舞います。村の草分けの家とその分家を「かみやし」と呼び、祭礼の宵宮に獅子が巡回します。翌日、八坂神社で祭式の後、拝殿前で獅子舞を奉納します。毎年、10月10日・11日に開催されます。

60 上野古典立華 B-4

江戸時代末期 / 上野 町指定

上野古典立華の創始は、安政6（1856）年、徳正寺住職と笛吹弥次右衛門氏が京都の地坊六角堂を訪れ、立華を学んだことに始まります。その後、長屋門・外蔵を配し、材料は北前船で産地から運んだという豪勢な家構えの中に、上方文化を取り入れた繊細な造作意匠を見ることが出来ます。

67 22 湯尾峠 C-3

飛鳥時代 / 湯尾 国指定・町指定

湯尾峠一帯は、古代の官道・北陸道から現代の北陸自動車道にいたるまで、北陸の主要幹線が集約している交通の要所です。歴史的合戦の舞台となった城跡や、孫崎守信の発元元としてにぎわった峠の茶屋跡など数多くの史跡が残っており、国名勝「おくのほそ道の風景地」の一つに指定されています。

72 朝倉街道 B-4

室町時代 / 牧谷峠～鯖波 町指定

朝倉氏は、北陸道のバイパス道として東側に並行して走る「朝倉街道」を整備しました。一乗谷を起点に北は丸岡、南は鯖波に至るまで、越前国内の各地を軍事的、経済的に結びつける非常に重要な道でした。

80 木ノ芽峠 D-3

平安時代 / 板取・ツノ屋 町指定

木ノ芽峠は、天長7（830）年に北陸道として開削されました。以降1200年の間、熊式部や親賢・親如、木曾義仲や新田義貞、信長・秀吉、松尾芭蕉もこの峠を越え行きました。標高628mに位置し、国境・邊境としての番所があり、その任に当たった前川家の茅葺き住宅が今も残っています。この一帯は度々重なる戦場にもなり城跡も多く残っています。

ホノケ山登山道 (塩の道)

飛鳥時代 / 風野々～菅谷 B-2

ホノケ山は、かつてノロシ台があったことからこの名がついたと言われています。ブナの原生林の中を走る「切り通し」は、深さ6mにも達するところもあり、この道路が通つては軍事・経済上大事な役割を果たしていたことを物語っています。

伝統文化 庭園・立華・民俗芸能

3 伊藤氏庭園 C-5

江戸時代中期 浦戸 国指定

伊藤氏庭園は、江戸時代の庭園図本「築山庭園伝」を基に作られた住宅庭園です。背後の山林を借景として、その山裾に築山を造り、池泉を設け、中島や岩島を配した築山林泉式座視鑑賞庭園であり、庭園図本に忠実に構成による地割りと配石が見られます。作庭当時の姿をくまなく、成功をおさめました。

8 今庄羽根曾踊り C-3

平安時代 今庄 県指定

今庄西方の神峰山光明聖寺の南院で舞われた「稚児の舞」が起源とされ、江戸時代の今庄宿隆盛時に、宿場の盆踊りとして今の形となったといわれています。作樂の楽器は一切使わず、本音頭と付手音頭等数名による掛合に合わせ踊られ、踊り手の袖や髪には鈴が付けられます。作庭当時の姿をくまなく、成功をおさめました。

7 上野の盆踊り B-4

江戸時代前期 / 上野 県指定

上野・泉泉寺境内において、毎年8月15日に催される盆踊りで、江戸初期に門間用水の完成を祝って始められたと伝えられています。踊りは「どら踊り」から始まり、「はね踊り」を中心にしながら、未婚の青年2人で舞を舞います。村の草分けの家とその分家を「かみやし」と呼び、祭礼の宵宮に獅子が巡回します。翌日、八坂神社で祭式の後、拝殿前で獅子舞を奉納します。毎年、10月10日・11日に開催されます。

9 八坂神社の獅子舞 B-4

江戸時代前期 / 八坂 県指定 D-4

八坂神社の獅子舞は、疫病よけのため始まったと伝えられ、未婚の青年2人で舞を舞います。村の草分けの家とその分家を「かみやし」と呼び、祭礼の宵宮に獅子が巡回します。翌日、八坂神社で祭式の後、拝殿前で獅子舞を奉納します。毎年、10月10日・11日に開催されます。